

海外果樹農業ニュースレター

(公財) 中央果実協会 (03) 3586-1381

2012年10月 第10号

写真：りんご



果樹産業の動向

香港は果実貿易におけるアジアの玄関口

The World Apple Report 誌 (2012年9月号)

- 目次 -

果樹産業の動向

・香港は果実貿易におけるアジアの玄関口 1

・北半球における2012年産りんごの生産見通し 3

現地報告

フランス 4

タイ 4

豪州 5

世界の果実需給

・2012/13年度における世界のモモ・ネクタリン・オウトウの需給 5

トピックス

・カリフォルニア州における春の降雪害でアジアナシの生産量は減少 7

・台湾のりんご・ナシ残留農薬基準追加設定により韓国産りんごの台湾向け輸出が増加 8

・台風16号による韓国産りんご・ナシへの影響 8

果物を食べて
応援しよう!

産地を応援

香港は、中国及び他のアジア諸国の直接輸入が増大しているにもかかわらず、依然として生鮮果実と野菜についてのアジアへの主要な玄関口となっている。表1は、6つの主要な果実について2009年、2010年及び2011年並びに2011年及び2012年の上半期における香港の輸入量、再輸出量及び輸入量から再輸出量を引いた純輸入量の実績を示している。

〈香港の貿易は依然として堅調〉

輸入量は、各果実とも2011年は2009年より増加した。再輸出量についてもまた、中国が独占的な生産国かつ輸出国であるナシを除いて、すべての果実について増加多した。純輸入量(香港で消費される分)は、オレンジ、バナナ、ナシ及びソフトフルーツ(アンズ、オウトウ、モモ、スモモ)で増加し、

ブドウは微減、りんごは15%以上減少した。

2011年の上半期と2012年の上半期の間で、香港の輸入量はオレンジとりんごについては減少したが、他の果実については増加した。オレンジとりんごの再輸出量及び純輸入量も同様に減少したものの、その他の果実は増加し、特にブドウとナシについては大幅に増加した。

表1 香港における主要果実の輸入及び再輸出の推移

(単位:トン)

品目	項目	2009年	2010年	2011年	2011年 1月～6月	2012年 1月～6月
オレンジ	輸入量	175,787	189,635	204,905	97,367	89,125
	再輸出量	53,085	64,051	71,230	25,765	22,624
	純輸入量	122,702	125,584	133,675	71,602	66,501
バナナ	輸入量	81,650	73,296	88,296	41,988	43,218
	再輸出量	21,546	17,097	25,734	11,427	11,563
	純輸入量	60,104	56,199	62,562	30,561	31,655
りんご	輸入量	120,004	131,012	134,084	81,376	67,760
	再輸出量	47,964	60,582	73,216	43,224	39,762
	純輸入量	72,040	70,430	60,868	38,152	27,998
ブドウ	輸入量	127,442	114,250	142,969	104,956	123,509
	再輸出量	93,596	81,235	110,380	87,240	97,993
	純輸入量	33,846	33,015	32,589	17,716	25,516
ナシ	輸入量	25,009	23,293	29,411	10,254	33,550
	再輸出量	1,133	668	396	185	9,395
	純輸入量	23,876	22,625	29,015	10,069	24,155
ソフト果実 *	輸入量	46,771	54,242	71,166	40,742	55,426
	再輸出量	18,655	24,382	39,270	30,812	33,120
	純輸入量	28,116	29,860	31,896	9,930	22,306

*アンズ、オウトウ、モモ及びスモモ。

〈再輸出の機会は変動する〉

香港で消費される6品目の果実の合計数量(純輸入量)は、2012年上半期は前年同期よりも11%増加した。2011年における各品目別の総輸入量に占める純輸入量の割合は、ナシ98.7%、バナナ70.9%、オレンジ65.2%、リンゴ45.4%、ソフトフルーツ22.8%で、それぞれの果実の再輸出の機会は中国の需給状況に強く左右されていることがわかる。

〈香港のリンゴ市場における中国の影響は弱まっている〉

表2は香港への国別供給量を示している。中国は、2009年に香港のリンゴ輸入量の37.8%を供給した。次いで米国が33.0%を供給した。2011年には、中国からの輸入量が20%以上減少したため、中国のシェアは26.7%に低下した。その間に、米国のシェアは43.7%に上昇し、数量は48.2%増加した。チリとニュージーランドは第3位と第4位の重要供給国としての地位が入れ替わり、ニュージーランドが3位に上昇した。豪州、フランス、日本及び南アフリカの4カ国を合わせると香港のリンゴ輸入量の約5%を占めるに過ぎず、依然として隙間供給国としての地位に止まっている。

2012年の上半期に、中国と米国両国からの輸入量が減少したことに伴い、香港のリンゴ総輸入量は減少した。中国のシェアは18.3%に下落し、米国のシェアは横這いであった一方、チリとニュージーランドのシェアは15%近くになった。

〈リンゴの輸入価格に大きな差〉

香港は比較的高収入で成熟した市場であるため、リンゴの品種や等級について広い価格帯の中で広範な品種を輸入する。表3は主要供給国のトン当たりの平均輸入価格(香港ドル)を示している。例えば2011年の平均輸入

表2 香港における供給国別のリンゴの輸入量の推移

(単位:トン)

	2009年	2010年	2011年	2011年 1月～6月	2012年 1月～6月
豪州	42	586	246	178	117
チリ	16,235	19,367	15,375	9,652	10,318
中国	45,312	41,137	35,865	21,523	12,385
フランス	1,188	1,650	1,758	515	1,048
日本	967	1,336	1,259	663	568
ニュージーランド	13,729	10,165	16,668	11,576	10,096
米国	39,552	52,745	58,614	35,150	29,667
南アフリカ	2,685	2,851	2,342	1,348	2,184
その他	294	1,175	1,957	771	1,377
合計	120,004	131,012	134,084	81,376	67,760

表3 香港における生鮮リンゴの供給国別平均輸入価格の推移

(香港ドル/トン)

	2009年	2010年	2011年	2011年 1月～6月	2012年 1月～6月
豪州	2,285.94	948.93	1,196.36	1,327.09	4,103.81
チリ	932.59	936.58	1,031.22	1,035.44	1,096.10
中国	299.49	371.00	479.36	420.22	708.99
フランス	1,217.75	1,181.08	1,323.20	1,274.66	1,427.71
日本	4,035.37	4,430.52	4,812.62	4,542.06	5,390.50
ニュージーランド	1,067.66	1,112.87	1,196.69	1,171.52	1,245.15
米国	1,131.75	1,178.10	1,330.30	1,333.41	1,405.26
南アフリカ	984.42	969.47	1,089.84	1,036.80	1,045.59
その他	1,052.88	1,193.20	1,288.97	1,350.18	1,452.53
平均	804.37	913.66	1,079.36	1,054.50	1,234.84

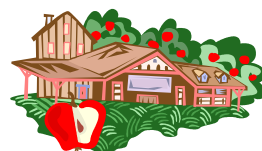
価格は1,079.36ドルであったが、中国からの輸入価格は平均輸入価格の44.4%であったのに対し、日本からの輸入価格は平均輸入価格の445.9%であった。中国は普通の「ふじ」を大衆市場に供給する傾向にあり、他方日本は高所得者向けやデパートで買物をする海外在住日本人向けに高価格な特殊リンゴパックを供給する傾向にある。

一般に、すべての供給国からのリンゴの平均輸入価格は、2009年から2012年の上半期までに上昇する傾向にあった。2009年から2011年の間に34.2%上昇し、また2011年上半期から2012年上半期の間では17.1%上昇した。豪州を除くすべての供給国は価格上昇により利益を享受した。しかしながら、中国産リン

ゴの輸入価格は平均価格の上昇率を上回るスピードで上昇した。中国では、生鮮りんごの取り扱い業者と加工業者が十分な供給量を確保するために競争していることから、リンゴの相対的不足に陥っている。

〈香港の中国への玄関口の役割は依然強い〉

香港は、多くの果実について中国への玄関口としての役割を維持することにおいて顕著な回復力を示している。つまり、その役割をいつか近いうちに手放す可能性はほとんどないということである。



北半球における2012年産リンゴの生産見通し

Good Fruit Grower 誌 (2012年10月号)

名目上、今シーズンの世界のリンゴ供給はかなり堅調に見える。しかし、見かけは偽って見えることもあり、米国の業界関係者は、2012/13年度の世界市場におけるリンゴ供給は不足に陥ると見ている。

その理由の一部が中国である。中国は世界のリンゴ生産量の過半を占める巨大生産国で、今年の実生産量は昨年を約8%上回ると見込まれている。中国の実産増8%というのは、274万トンに相当し、これはワシントン州の実産量にほぼ匹敵する。しかし中国産リンゴは世界のリンゴ市場に完全に統合されているわけではない。そして、中国以外の国々(米国、カナダ、メキシコ、欧州)は減産が見込まれている。

今シーズンの世界需給について、8月末にシカゴで開催された米国リンゴ協会のリンゴ生産見通しについての国際会議での各地からの状況報告を次に紹介する。

＜中国＞

中国で最も古くかつ最大の濃縮リンゴ果汁製造企業である Zhonglu Fruit Juice 社の米国子会社 Zhonglu America 社は、中国の2012年のリンゴ生産量が3,870万トンに達すると報告している。これは米国の総生産量の約10倍に相当する。

中国のリンゴ生産量は年々増大を続けているものの、中国国内での生食需要が急速に伸びていることから、加工原料の調達に難しく、濃縮リンゴ果汁の実産量は減少を続けている。生産者は高く売れる生鮮市場向けに、より長期的に出荷しようと貯蔵量を増やし始めている。

中国の濃縮リンゴ果汁生産は、2007年の110万トンピークに、その後減少を続けている。中国の濃縮リンゴ果汁の供給量が徐々に減少するにつれ、世界規模で果汁仕向けリンゴの価格が強含みに転じている。同社によると、昨年、中

国産リンゴの加工仕向量は生産量の12%で、国内生食市場向けは82%であった。しかし、今年の実産見通しから、濃縮果汁の輸出は昨年の62万6千トンを上回る71.0万トンと見込んでいる。

＜メキシコ＞

メキシコは米国産リンゴの重要輸出市場であるものの、その輸入量はメキシコ国内産の動向によって左右される。メキシコのリンゴ生産・出荷・輸入業である Paquime 社によると、今シーズンの生産量は37万5千トンで、需要が56万6千トンと見込まれることから、19万トンの供給不足が予想される。供給不足の47%は米国からの輸入でカバーされるという。メキシコでは一般的に消費者にとってリンゴは贅品であり、今年の実産の落ち込みから供給不足による価格高騰は避けられず、ますます一般消費者にとって手が届かないものになるだろう。

＜欧州＞

ブリュッセルにある世界リンゴ・ナシ協会(World Apple and Pear Association)によると、今年はいほとんどの欧州諸国で春の到来が早かったものの、その後低温に見舞われた結果、今年の実産量は平年の1,040万トンを7%下回る970万トンに止まると見られている。

ポーランドは欧州最大の生産国で、今年の実産量は過去5年平均を24%上回る278万7千トン)である。イタリアは欧州第2の実産国であるが、10%減の200万トン、第3位の実産国フランスは過去5年平均を29%下回る160万トン、ドイツはほぼ平年並みの93万3千トンとなっている。

EU域外の欧州の大生産国はトルコとロシアであるが、トルコは平年を若干下回る240万トン、ロシアは160万トンとなっている。

欧州全体の品種別生産量は、「ゴールドデリシャス」が最も多く

220万4千トンで、次いで「ガラ」が106万4千トン、レッドデリシャスが55万1千トンとなっている。

＜カナダ＞

オンタリオ州の Norfolk 果実協会によると、今年のカナダの実産量は昨年を32.6%下回る26万8千トンで、ここ二十数年振りの低い水準だという。

特に落ち込みの激しいのはオンタリオ州で、過去5年平均実産量17万7千トンを87.2%下回る2万1千トンである。オンタリオ州はミシガン州、ニューヨーク州といった5大湖周辺州と同様、3月は平年並みの温暖な気候で発芽も進んだものの、4月に入り夜間の気温が急激に低下し、大きな減産となった。これに対し西海岸のブリティッシュコロンビア州は5年平均を26%上回る10万5千トンで、そのうち1万1千トンが1990年代に同州で見つかった新品種「アムブロシア(Ambrosia)」である。

西海岸のノバスコシア州は平均並みの4万トン、ケベック州は9%減の10万1千トン、ニューブランズウィック州は若干減の3千トンとなっている。

米国における2012年産リンゴの州別生産見通し

(単位:トン)

州名	2011年	2012年	増減率
カリフォルニア	127,006	127,006	0
コロラド	4,082	7,711	89
イリノイ	18,144	11,793	-35
インディアナ	9,072	2,495	-72
アイオワ	1,814	318	-82
メイン	13,154	10,886	-17
マサチューセッツ	17,463	14,061	-19
ミシガン	446,789	47,627	-89
ミネソタ	10,659	6,124	-43
ミズーリ	6,804	15,422	127
ニューヨーク	553,383	267,620	-52
ノースカロライナ	63,503	18,144	-71
オハイオ	30,209	17,962	-41
ユタ	8,618	7,257	-16
バーモント	15,195	10,886	-28
ワシントン	2,453,938	2,585,480	5
ウィスコンシン	23,315	9,072	-61
合計	4,272,845	3,658,544	-14




現地報告
フランス：新果樹園整備に関する助成制度ほか

佐川 みか

<フランスの新果樹園整備に関する助成制度>

フランスにおいて農・水産部門の補助金を扱う機関 FranceAgriMer (農業省管轄)は、5月24日、果実・野菜部門の評議会で新たな果樹園整備助成制度を採択した。これはフランスの果実・野菜の国際競争力を高めるため、国が技術・防除・経済面で農家を助成するもので、2012年7月1日から始まる作付け年度1年間について、一軒当たり20ha以内、1果実につき5ha以内に限定して実施される。助成対象は果樹園の整地や新植、苗の購入費用の一部負担である。また、ウメ輪紋ウイルス(プラムボックスウイルス)の被害を受けたモモ・ネクタリンの果樹園の場合は、更新される果樹園の灌漑設備の設置費用にも助成される。助成額はモモ・ネクタリン以外の場合は費用の20~25%で、若齢農業者(35歳未満)には費用の5%が上乗せされる。モモ・ネクタリンの場合は費用の40%で、若齢農業者の上乗せ額は10%、条件不利地域についても10%が上乗せされ、農家によっては若齢農業者の上乗せ額と条件不利地域の上乗せ額の両方を受け取ることができる。果実は公式カタログに認定された(または認定手続き中)品目に限られる。

<フランスで広がる「休み時間に果実を」プログラム>

2008年にフランスで開始したこの制度は、希望する市町村・学校と業者(給食業者、果実生産者組合、出荷組合など)などが契約を結んで、学校の休み時間に果実を配布するというもので、農業省はそれぞれの立場の人にどのように手続きをとるかをインターネットや会合を開いて説明している。また、父兄会が学校に実施を要求する場合についても指導している。現在、フランスの1,000の市町村で、幼稚園、小・中・高校の50万人の児童・生徒がこの制度の恩恵を受けている。

EUでも2009年からこの制度をEU全域で導入して財政援助を始め、現在、費用の51%を助成している。フランスでは、最近、学校単位だけでなく、1クラス単位で申請することも可能になった。また1学期だけの利用も可能である。果実の配布費用は地域や業者により格差があるものの、平均1人当たり1回の配布に0.25ユーロかかる。参加市町村は1学期につき、最低6回の配布を約束することが条件とされる。

<フランスの青果物業界が警戒するトルコ>

フランスの果実・野菜の生産・流通などの技術指導をしている果実・野菜業際技術センター(CTIFL)の

流通関係情報誌 *Détail fruits et légumes* は2012年6月発行の291号で、トルコの青果物がフランスの有力な競争相手になっていると報じている。トルコは年に26百万トンの野菜と16.6百万トンの果実を生産し、酸果オウトウ、アンズの生産量は世界1位、イチジク、ピーマン、キュウリは2位、ザクロ、リンゴ、オリーブ、クルミ、インゲンは3位を占める。また自国産のヘーゼルナッツの輸出量でも世界1位である。消費量も多く、年間の一人当たり消費量は、野菜で176kg、果実で137kgで、フランスの2倍となっている。全国で3つある公共卸売市場のうち571の卸売業者を抱えるイスタンブールは通過市場として機能し、青果物の取扱量は年に320万トンである。フランスでは量販店と出荷組合の直接取引が圧倒的に多いとはいえ、パリ近郊の卸売市場のレンジは2010年に約80万トンの取り扱いしかなかった。トルコの量販店では消費者の要望に応じて、カット済みや味を付けた生鮮青果物も販売している。トルコの青果物の最大輸出先はロシアであるが、ヨーロッパへの輸出も少しずつ確実に増えている。トルコのEU加盟は現在のところ遠のいた感があるが、いずれ加盟となるとフランスにとっては深刻な競争相手となる。

タイ：農産物先物市場にパインアップル缶詰が上場ほか

中元 進弘

<タイ農産物先物市場にパインアップル缶詰が上場>

タイのブンソン商務省大臣は9月10日、輸出向けパインアップル缶詰をタイ農産物先物市場(AFET)に9月28日付けで上場することを発表した。基準となる商品はシロップ漬け20オンス缶で、参照価格は加工業者大手6社の価格から算出する。取引の最小単位は1,300ケースで、1ケースは20オンス缶24個、時価にして約40万パーツとなる。

パインアップル缶詰はタイの重要な輸出商品の一つで、年間およそ300億バーツ相当の外貨を獲得しているものの、パインアップルの相場変動が激しいことがネックになっている。生鮮パインアップルは日持ちしないため、AFETではパインアップル缶詰を上場させる。

パインアップルの缶詰加工業者は、この発表を歓迎しているものの、政府とAFETが投資家の興味を引きつけることができるかどうか成功の鍵を握るとしている。

(2012年9月17日号「タイ経済」紙)

<農業協同組合省、タイ産果実のアジア市場拡大を試みる>

農業協同組合省は中国市場でタイ産果実の市場拡大が成功したことからアジア地域への輸出拡大に向けて準備を進めている。

農業協同組合相のアドバイザーによると、中国においてのタイ産果実の輸出促進を実施した結果、2011年には数量で前年比15.5%

増の 505,606 トン、金額で同 29.2% 増の 139.57 億バツと過去最大の生鮮果実を中国に輸出した。

果実の販売量が増加したことで国内果実価格も上昇している。そこで、

農業協同組合省はこの経験を活かしてその他のアジア地域の輸出の拡大を試みる。特にアジア地域は他の地域と比べ経済、消費、物流の面でタイ産果実に優位で大きな可能性があ

る。地域としては日本、韓国、シンガポール、香港、台湾、インドネシアは将来有望な市場になる。

(2012年9月30日付け「Thai News Agency」)

豪州：130 数年振りにタスマニア州産リンゴの輸出がゼロ

トニー・ムーディ

<130 年振りにタスマニア州産リンゴの輸出がゼロ>

南オーストラリア州(SA)産リンゴが 3 年振りに輸出されることになった。アデレードヒルリンゴ協同組合が、今シーズン 3 年振りに英国向けにピンクレディー18 コンテナを輸出する予定である。南オーストラリア州リンゴ・ナシ生産者協会によると、国内市場の価格低迷から輸出に向かわざるを得ないという。

これに対し、10 年前には豪州全体のリンゴ輸出の過半を占めていたタスマニア州産リンゴの輸出が、今シーズン、実に 130 数年振りにゼロとなり、このままではタスマニアのリンゴ産業の衰退につながることを懸念している。

タスマニア州産リンゴの輸出がゼロという事態を招いた要因としては、豪ドル相場の高騰とタスマニアから直接外国向けに積み出しができなくなったことによる。タスマニア産リンゴを積み込んだ

コンテナは、一旦メルボルンに運ばれ、そこからアジア市場に海上輸送される。輸送費はタスマニアからメルボルンまでが 4,500 ドル、メルボルンからアジア市場まで 3,000 ドルかかる。400 kmしか離れていないタスマニア・メルボルン間の輸送費がメルボルンから 1 万 km以上離れた日本までの輸送費より高いのは、小型船輸送による航路の独占が要因である。

タスマニアのリンゴ生産は、18 世紀末に始まり、1962 年には英国や欧州諸国向けに 12 万 6 千トンのリンゴを輸出した。

1970 年代に入って英国が EEC に加盟し、共通農業政策に組み込まれた結果、タスマニア産リンゴは欧州市場から締め出された。その結果、1960 年代には 4,000 戸のリンゴ生産農家は、政府のリンゴ抜根奨励策もあって半減し、輸出量は劇的に減少すること

となった。

タスマニア島は豪州大陸から遠く、大陸にある海外市場向け積出港までの輸送コストの面で大きなハンディを負っている。このため連邦政府は、タスマニアから本土の輸出港までの輸送を陸上輸送で行ったと仮定して、算出される輸送費と実際の海上輸送費の差額を助成する輸送費平衡制度を実施している。しかし、この助成措置も全ての輸出用果実に適用されているわけではない。

このため、タスマニア州の果実生産者団体は、輸送費平衡制度の手直しを求めて政府と交渉しているものの、これまでのところ成果を上げられていない。

(注釈:文中のドルは、豪ドル)



世界の果実需給

2012/13 年度における世界のモモ・ネクタリン・オウトウの需給

米連邦農務省海外農業局 HP より (2012年9月公表)

<モモ/ネクタリン>

世界のモモ/ネクタリンの生産量は、2012/13 年度においても引き続き増加を続け、昨年に比べて 3% 増加し、記録的な 1,940 万トンになると見込まれている。中国が増加部分のほとんど全てを占める。貿易量もまた増加しており、世界の輸出量は 66 万トンを超える記録に到達すると予測されている。

米国の生産量は 5% 減少して 110 万トンになると予測されている。ミシガン州の生産は春季の氷点下の気温によってかなり減少する一方、サウスカロライナ州の生産も激しい嵐によって被害を受けた。

輸入は、需要が弱いいため、わずかに減少すると予想されている。輸出は、トップの市場にそれほど変化がな

く、10 万トンで引き続き横這い状態で推移すると予測されている。

中国の生産量は、世界全体の半分以上を占め、面積は微増に止まるものの、気象条件が良好であったため、記録的な 1,200 万トンに達すると見込まれている。貯蔵や輸送上の課題が輸出潜在力を制約しているものの、ベトナム及びロシアの増大する需要が輸出量を 30% 近く増加させ、5 万トンに達すると予測されている。

EU-27カ国の生産量は依然として堅調で 430 万トンと予測されている。イタリア、スペイン及びギリシャの豊作が他のメンバー国の生産量の落ち込みを相殺すると予測されている。スペインの生産量は栽培面積の拡大と新しい豊産性品種によって増加している。輸出量はウクライナからの需

要の増加によって 32 万 5 千トンに増加すると予測されている。輸入量は 3 万トンに止まると予想されており、オフシーズン需要はほとんどがチリ及び南アフリカによって満たされる。

トルコの生産量は良好な気象条件によって僅かに増加し、55 万トンになる。輸出量は、ウクライナ及びロシアからの需要の増加と豊富な供給量により 35% 以上急増し、4 万 5 千トンの見通し。

チリの生産量は、実質的に変化がなく、15 万トンに止まると予想されている。

栽培面積は、生産者が果樹園を豊産性品種に更新していることから、この数年間減少傾向にある。輸出量は昨年からはほとんど変化がなく 9 万 4 千トンに止まる見通し。

台湾の生産量は実質的に変化がないと予測されているものの、輸入量は若干減少して2万トンになると予想されている。米国は引き続き台湾に対する支配的な供給国となり、モモ/ネクタリンの輸入量の4/5を占めている。

<オウトウ>

世界のオウトウの生産量は、3年連続して実質的に変化がなく、2012/13年度は240万トンになる。生鮮オウトウの消費量は僅かに増加すると予測される一方、加工向けのオウトウは昨年より10%減少すると予測されている。貿易は拡大し、アジア諸国、特に中国からの需要の増加により、輸出は30万トンの記録に達すると予測されている。

米国の生産量は、甘果オウトウの増加分を上回る酸果オウトウの大幅な減産により、昨年より7%減少して37万4千トンと予測されている。酸果オウトウの全量が加工市場に向けられ、酸果オウトウの生産量は、ミシ

ガン州における発芽期の氷点下の気温で70%減少すると予測されている。輸出仕向は、ほぼ全量が甘果オウトウで、甘果オウトウの生産量は、西海岸の良好な気象条件によって15%増加して34万トンになると予測されている。甘果オウトウの大幅な増産で輸出可能供給量は増加する一方、輸入需要は減少する。輸出量は25%以上増加して9万トンと予測されており、特に韓国への出荷は今年3月に締結したFTAによって2倍以上に増加すると期待されている。

EU-27カ国の生産量は、いくつかのメンバー国における栽植の減少と生育ステージにおける天候不良の結果、僅かに減少して78万トンと予測されている。

生産量の減少は主に域内消費と加工市場に影響を与えるため、輸入需要は引き続き堅調である。オウトウの純輸入地域として、トルコはEUの最大の供給国である。

トルコは、昨年より25%回復し、50万トンに達すると予測されているものの、2010/11年度の記録を下回っている。収穫は開花期の良好な気象条件並びにほとんどの栽培地域において霜害がなかったことに支えられた。大量の輸出可能供給量とあわせてロシア及びEU-27カ国からの需要の増大はトルコの輸出量を30%増加させ6万トンになると予測されている。

中国の生産量は、主要生産省である山東省において開花期に大量の降雨があったことで20%近く減少し、17万トンになると予測されている。この結果、不足分の一部を満たす必要から輸入量は70%増加し、4万トンになると予測されている。収穫量の減少から国内産価格が急騰した結果、米国産オウトウの価格競争力が強まっている。チリからの輸入量は昨年よりほぼ倍増している。中国は、消費者が輸入オウトウの甘い食味と硬い皮を好

2012/13年度における世界のモモ/ネクタリンの需給

(単位:1,000トン)

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
豪州	2008/09	106	0	6	50	49	メキシコ	2008/09	202	38	1	239	0
	2009/10	98	0	6	45	48		2009/10	200	25	1	224	0
	2010/11	120	0	4	81	35		2010/11	205	31	2	234	0
	2011/12	128	0	7	84	37		2011/12	205	35	0	239	0
	2012/13	132	0	9	86	37		2012/13	205	40	1	244	0
ブラジル	2008/09	239	17	0	256	0	ロシア	2008/09	31	162	0	193	0
	2009/10	216	22	0	238	0		2009/10	32	156	0	188	0
	2010/11	220	28	0	248	0		2010/11	32	224	0	256	0
	2011/12	220	28	0	248	0		2011/12	28	250	0	278	0
	2012/13	220	28	0	248	0		2012/13	28	255	0	283	0
カナダ	2008/09	29	62	1	89	0	ベトナム	2008/09	0	6	0	6	0
	2009/10	26	49	1	74	0		2009/10	0	19	0	19	0
	2010/11	26	53	1	78	0		2010/11	0	13	0	13	0
	2011/12	26	51	0	76	0		2011/12	0	21	0	21	0
	2012/13	27	50	1	76	0		2012/13	0	25	0	25	0
チリ	2008/09	177	0	102	72	4	台湾	2008/09	30	34	0	64	0
	2009/10	151	0	90	58	4		2009/10	29	24	0	53	0
	2010/11	161	0	100	58	3		2010/11	28	27	0	55	0
	2011/12	153	0	96	54	3		2011/12	30	22	0	51	0
	2012/13	151	0	94	54	3		2012/13	30	20	0	50	0
中国	2008/09	9,549	0	26	8,251	1,272	トルコ	2008/09	540	0	43	385	112
	2009/10	10,040	0	40	8,650	1,350		2009/10	547	0	32	395	120
	2010/11	10,475	0	28	9,147	1,300		2010/11	540	0	41	379	120
	2011/12	11,500	0	39	9,861	1,600		2011/12	520	0	33	367	120
	2012/13	12,000	0	50	10,270	1,680		2012/13	550	0	45	385	120
EU-27	2008/09	4,005	43	196	3,074	777	米国	2008/09	1,285	67	120	702	530
	2009/10	4,116	36	208	3,045	882		2009/10	1,182	51	91	615	526
	2010/11	3,994	27	279	2,986	738		2010/11	1,237	50	111	665	511
	2011/12	4,250	30	315	3,258	689		2011/12	1,154	47	101	637	464
	2012/13	4,261	30	325	3,228	720		2012/13	1,099	43	100	597	445
日本	2008/09	157	0	1	138	19	合計	2008/09	16,940	515	521	13,968	2,967
	2009/10	151	0	1	131	19		2009/10	17,340	464	495	14,151	3,140
	2010/11	137	0	0	119	18		2010/11	17,759	541	609	14,738	2,935
	2011/12	140	0	0	122	18		2011/12	18,961	574	638	15,737	3,142
	2012/13	138	0	0	120	18		2012/13	19,444	599	665	16,126	3,234

注:年度は北半球では最初の年の1月から始まり、南半球では11月から始まる。

合計の数値にはサウジアラビア、南アフリカ、ウクライナ、ウズベキスタンの数値が含まれる。

むことから主要な輸入市場になった。
チリの生産量は、生産地域が引き続き拡大しているため、僅かに増加して9万2千トンになると予測されている。輸出量は、EU・27カ国、日本及び中国への大量の出荷が見込まれていることから7万6千トンと予想されている。
日本の生産量は昨年の大豊作から減少して、2万トンに落ち着くと予想

されている。
 生産者はより効率的に生産を行うために収穫最盛期の異なる複数の品種を栽培している。
 輸入はほとんどがもっぱら米国からで、引き続き1万トンで安定している。
台湾の輸入量は25%増加して1万5千トンと予測されている。米国は

引き続き台湾のアウトウ市場の半分以上を供給しているが、現在はチリが米国のオフシーズンに市場に供給しているため、市場シェアは幾分小さくなっている。



世界のアウトウの需給

(単位:1,000トン)

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
アルゼンチン	2008/09	5	0	2	3	0	日本	2008/09	17	9	0	23	3
	2009/10	5	0	2	3	0		2009/10	17	10	0	25	2
	2010/11	7	0	3	4	0		2010/11	20	11	0	29	2
	2011/12	6	0	2	4	0		2011/12	21	10	0	30	2
	2012/13	6	0	2	4	0		2012/13	20	10	0	28	2
豪州	2008/09	11	3	2	12	0	ロシア	2008/09	73	60	0	133	0
	2009/10	11	3	2	12	0		2009/10	76	72	0	148	0
	2010/11	8	4	1	10	0		2010/11	67	74	0	140	0
	2011/12	11	4	2	13	0		2011/12	70	80	0	150	0
	2012/13	12	4	2	14	0		2012/13	70	85	0	155	0
ウクライナ	2008/09	204	0	1	74	129	台湾	2008/09	0	10	0	10	0
	2009/10	169	1	1	52	116		2009/10	0	12	0	12	0
	2010/11	228	0	3	70	155		2010/11	0	9	0	9	0
	2011/12	220	1	3	68	150		2011/12	0	12	0	12	0
	2012/13	220	1	4	67	150		2012/13	0	15	0	15	0
カナダ	2008/09	13	25	2	29	6	トルコ	2008/09	525	0	29	347	150
	2009/10	21	30	6	39	7		2009/10	610	0	51	379	180
	2010/11	16	27	5	32	6		2010/11	613	0	65	368	180
	2011/12	13	33	7	35	4		2011/12	400	0	47	209	144
	2012/13	16	40	7	43	6		2012/13	500	0	60	285	155
チリ	2008/09	59	0	38	12	8	米国	2008/09	315	25	46	138	156
	2009/10	57	0	33	16	8		2009/10	495	13	65	218	226
	2010/11	77	0	58	11	8		2010/11	362	20	59	184	140
	2011/12	86	0	70	12	4		2011/12	404	20	71	184	169
	2012/13	92	0	76	12	5		2012/13	374	18	90	198	105
中国	2008/09	174	3	0	176	1	ウズベキスタン	2008/09	61	0	0	61	0
	2009/10	185	6	0	190	1		2009/10	67	0	5	62	0
	2010/11	190	11	0	200	1		2010/11	75	0	9	66	0
	2011/12	210	24	0	224	10		2011/12	80	0	14	66	0
	2012/13	170	40	0	208	2		2012/13	50	0	5	45	0
EU-27	2008/09	628	33	31	433	198	韓国	2008/09	0	3	0	3	0
	2009/10	725	44	31	482	256		2009/10	0	4	0	4	0
	2010/11	706	42	20	462	266		2010/11	0	4	0	4	0
	2011/12	834	40	31	529	314		2011/12	0	5	0	5	0
	2012/13	783	40	30	499	294		2012/13	0	11	0	11	0
香港	2008/09	0	9	0	9	0	合計	2008/09	2,183	180	177	1,536	650
	2009/10	0	14	0	14	0		2009/10	2,547	209	223	1,738	795
	2010/11	0	14	0	14	0		2010/11	2,465	216	244	1,681	757
	2011/12	0	17	0	17	0		2011/12	2,460	246	270	1,640	796
	2012/13	0	15	0	15	0		2012/13	2,416	279	298	1,679	718

注:年度は北半球では最初の年の1月から始まり、南半球では11月から始まる。
 合計の数値にはキルギスタン、シリア及びセルビアの数値も含まれる。

トピックス

<カリフォルニア州における春の降雪害でアジアナシの生産量は減少>

今年のカリフォルニア州におけるアジアナシの生産量は、前年を若干下回ると見られているものの、品質は極めて良く、需要も多いという。

アジアナシの大規模生産者である Kingsburg Orchard 社によると、同社では年々10~20%のペースで栽培面積を拡大しているものの、今年は生育初期の雹害により生産量は前年並みに止まると見ている。

同社の主力品種であり、外觀がリンゴの「ゴールドデンデリシャス」に似ている「Crunchy Golden」の収穫は9月第1週に終わり、この品種の市場は同社のほぼ独占状態にある。同社では「豊水」の収穫を9月半ばに終え、来

(公財) 中央果実協会

公益財団法人 中央果実協会

住所

〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル2階

電話 (03)3586-1381
FAX (03)5570-1852



毎日くだもの200グラム運動

本誌についてのご質問、お気付きの点などがある場合、または他に転載する場合には、左記上にご一報くださるようお願いいたします。許可なくしての転載および複製(コピー)は著作権の侵害となることがありますのでご注意ください。

本誌の翻訳責任は、(公財)中央果実協会にあり、翻訳の正確さに関して Vance Publishing 社 (The Packer)、Belrose 社 (The World Apple Report) 及び Washington State Apple Commission (Good Fruit Grower) の各社は、一切の責任を負いません。

年4月から5月まで出荷する予定である。

Western Fresh Marketing 社によると、同社では8月第2週から「豊水」と「新興」の収穫を開始し、年内の出荷量はかなりの量に上るといふ。

Oppenheimer Group 社によると、今年の鳥取産「二十世紀」は10月中旬に到着する見込みだといふ。鳥取産ナシは10kg詰めで、同社が独占的に取り扱っており、今年産は生育期の気候に恵まれ潤沢な供給が見込まれるといふ。しかし、同社の今シーズンの取扱量は、カリフォルニアの生育初期の雹害と低温の影響を受け、前年より10~15%減と見込んでいる。生産量の落ち込みが見込まれることから取引は底堅い動きを見せており、供給不足も懸念され、値段は10ドル強の状態が続いている。

米国農務省のデータによると、9月4日のロサンゼルス市場でのカリフォルニア州産「豊水」の出荷価格は、1箱12個入り一層詰めで17ドルと、前年同時期の15~16ドルを上回っている。

Kingsburg 社によると、8月がかなり暑かったことから今年の「Crunchy Gold」や「豊水」の糖度はかなり高く、品質は上々だといふ。

Western Fresh Marketing 社も品質は素晴らしく、玉サイズも販売し易い10玉、12玉、14玉詰めが多いと語っている。(2012年9月10日付け「The Packer」紙)

<台湾のリンゴ・ナシ残留農薬基準追加設定により韓国産リンゴの台湾向け輸出が増加>

韓国産リンゴの台湾向け輸出は、当誌7号(4頁)で紹介したように、昨年、台湾の韓国産リンゴ全数検査措置により落ち込んだものの、6月20日から台湾が、今年の残留農薬基準に登録する成分を予定どおり21成分(リンゴ15、ナシ6)追加したため、9月の台湾への輸出は前年同月比で数量で53%、金額で175%増加してそれぞれ128トン、54万ドルとなった。

(10月12日付け韓国農林水産食品部ホームページより)

<台風16号による韓国産リンゴ・ナシへの影響>

【リンゴ】

8月29日に台風15号が韓国を襲った。台風襲来前の生産量は、前年を6%上回る予想であったため、台風による落下被害の影響を受けたにもかかわらず、生産量は昨年より若干多い38万3千トンに止まった。

その後、9月17日に台風16号が慶北

道の榮州・奉化に被害を与えたものの、全体の需給に影響を及ぼすものではなかった。台風16号は秋夕(中秋節:今年は9月30日)向けリンゴの出荷がほとんど終わった時点で発生したので、「紅露」への被害は非常に僅かで、晩生「ふじ」に被害を及ぼしたものの、その影響は限定的であった。

「ふじ」の生育は良好で、品質も全般的に昨年より良好である。

品種別生産量増減率(前年対比)

(単位:%)

	ふじ	つがる	紅露	早生ふじ	陽光
台風前	6.8	1.7	4.3	3.8	0.5
台風後	2.2	1.2	-2.8	-1.8	-0.8

地域別生産量増減率(前年対比)

(単位:%)

	忠清道	慶北道	慶南道	湖南
台風前	7.4	5.0	3.6	7.9
台風後	2.3	3.4	-8.2	-1.2

ソウル市可楽市場における卸売価格

(単位:ウォン/15kg)

年	品質	7月	8月	9月
2012年	上級品	55,733	45,043	61,622
	中級品	40,386	34,117	48,871
2011年	上級品	46,316	36,697	42,420
	中級品	33,828	27,348	30,773

注:7月は「つがる」、8月は「紅露」、9月は「陽光」の価格。

【ナシ】

農村経済研究院の「農業観測」10月号によると、ナシの生産量は昨年より28%少ない21万トンの見通しとなった。これは台風15号による落果被害が大きかったことに加え、9月17日の台風16号で嶺南(慶尚道)地域に被害が発生したことによる。

地域別では忠清と嶺南地域の生産量が前年よりそれぞれ31%、15%減少する見通し。特に台風被害が激しかった湖南(全羅道)地域は昨年より47%減少する見通し。

今年のナシの輸出量は、生産量の減少に伴い昨年より19%減少する予定である。

品種別生産量増減率(前年対比)

(単位:%)

	新高	園黄
台風前	0.7	-3.4
台風後	-26.2	-14.2

地域別生産量増減率(前年対比)

(単位:%)

	江原・京畿道	忠清道	湖南	嶺南
増減率	-11.1	-30.6	-46.9	-15.2
面積比	21.3	22.5	31.3	24.9

(韓国農村経済研究院「農業観測」(2012年9月号及び10月号より))